

カリタス女子中学校 第二回入学試験

二〇二三年二月一日（午後）実施

国語問題

（五〇分）

* 答えはすべて解答用紙に記入すること。

* 字数の指定がある場合は、句読点や記号をふくむこととします。

一 次の①～③の——部の漢字をひらがなに改め、④～⑦の——部のひらがなを漢字に改めなさい。ただし、④～⑦で送りがなを必要とするものについては、送りがなも書くこと。

① 新緑の街路樹をながめながら散歩した。

② 貧富の差が広がる。

③ 株価が下落する。

④ めいろうな青年だ。

⑤ この寺はともしんせいな感じだ。

⑥ そのことはひみつにしておこう。

⑦ 恐竜はきょうりゅうは大昔にたえた。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

きみは学校に電車で行きますか？ わたしがつとめている学校では、多くの生徒が電車で登校します。電車が遅れているときには、生徒が1時間目の授業に間に合うよう、教室にばたばたと駆けこんできて授業がはじまります。きみも電車に乗っていて、事故などで到着が遅れたことがあるでしょう。電車が遅れたせいで授業に間に合わなかったとき、遅刻をなかったことにしてほしいと思いませんか。これについて次の事例を考えてみてください。

case 1 遅刻をなかったことにしてほしい！

4月、中学3年生になったばかりのタツルくんは、電車で学校に通っています。家の最寄り駅から2つ隣の駅まで電車に乗ります。ある日すっかり目覚まし時計をかけずに寝てしまいました。翌日、起きるとなんと始業40分前です。急げば家のドアから学校の教室まで30分で行くことができます。ギリギリ間に合うと思って走りましたが、駅に着くと電車が15分遅れています。結局、教室に着いたのは授業がはじまって20分後でした。

運の悪いことに1時間目は、きびしいハルカ先生の授業でした。ハルカ先生は、やっぱり「なんで遅れたの！」と怒っています。タツルくんは、「電車が遅れなければ間に合っていました。僕のせいではなく電車の遅れが原因なので、遅刻をなかったことにしてほしいんですが……」と言いました。すると、ハルカ先生に「そんな理由にならないでしょ！ 電車は遅れることがあるんだから、早く家を出なさい！」とますます怒られてしまいました。タツルくんは「すみません……」と言ってその場をやりすごしましたが、「学校に遅れたのは、電車のせいじゃん……。遅刻をなかったことにしてほしいよなあ」と納得できず、もやもやしたまま一日をすごしました。

鉄道会社は、時間どおりにお客さんを運ばなければならぬのでしょうか。

1

、電車が遅れたことを理由に遅刻をなかったこと

case 1では、2つの契約が隠れています。1つは、タツルさんと鉄道会社の契約です。もう1つは、タツルさんと学校の契約です。実は、わたしたちが電車に乗るとき、鉄道会社と契約を結んでいるのです。契約とは、約束を結ぼうとする人たちの意思表示(考えを表すこと)が合致することで成立する約束のことです。

2、買い手が「コーラを100円で買いたい」といい、売り手が「いいよ」といえば契約が成り立ちます。「コーラを100円で買いたい」というのを申込みといい、「いいよ」という返事のことを承諾といいます。申込みと承諾によって契約が成り立つと、お互いに権利と義務が生まれます。売り手には100円をもらう【i】と、コーラをわたくし【ii】があります。買い手にはコーラをもらう【iii】と、100円をはらう【iv】があります。いったん契約を結んだら、【v】を果たさなければなりません。【vi】が果たされない場合は、裁判所に訴えて【vii】を果たすように強制することを求めたり、損害賠償を請求したりすることができます。

タツルくんが電車に乗るときに結んだ契約は、鉄道会社がお金と引きかえにお客さんがある駅から別の駅まで運ぶというものです。この契約では、電車の遅れについてはどのようなになっているのでしょうか。鉄道会社のホームページに載っているルール(これは約款とよばれます)を見てみましょう。

たとえば、ある鉄道会社の約款には、「電車が2時間以上遅れて駅に着いたときには、責任をとって運賃を払い戻します」とあります。ここに書かれていること以外について、鉄道会社は電車が遅れたからといって責任をとる必要はないのです。つまり、^A電車が15分遅れたからといって鉄道会社は義務を果たしていないとは言えません。

現実に、電車が遅れて損をしたからお金を払ってほしいと裁判を起こした人がいました。その人は、電車に乗って仕事に向かっていたが、電車が何度も遅れて仕事に間に合いませんでした。そして、「仕事に遅れて、知人との待ち合わせにも遅れた。そのせいで取引先や知人に信用されなくなりました。また、精神的にも大きな被害があった」として、^B鉄道会社にお金の支払いを求めて裁判を起こしました。

この人は、鉄道会社の責任を制限する約款が無効だといいましたが、2006年に東京地方裁判所は判決を下し、この約款は有効としました。その理由は、鉄道会社が電車の遅れの責任をいちいちとってお金を払っていたら、安くたくさんのお客さんを運ぶことができないからです。鉄道会社の契約上の義務は目的地までお客さんを運ぶことで、(大幅に遅れたとき以外は)時間どおりにお客さんを運ぶ義務はないということです。

3、鉄道会社が遅延証明書を出すときもありますよね。タツルくんが遅延証明書を手に入れて「遅延証明書があるから学校は遅刻をなかったことにしなければならぬはずだ」といった場合はどうなるのでしょうか。実は、遅延証明書は単に電車が遅れたという事実を表しているにすぎません。

4、遅延証明書の扱いについては、タツルくんが学校と結んだ契約の内容に従わなければならないのです。

契約という考え方は、歴史的に出てきたものです。契約は、契約を結ぼうとする人が自由にその内容を決めることができます。どのような契約をするか（契約内容）、だれと契約をするか（契約相手）、どのような形式で契約をするのか（契約形式）、そもそも契約を結ぶのかどうか（契約締結）といったことはすべて自由です。

これは当たり前のようですが、昔は自由に職業を選んだり、自由に経済活動をしたりすることができませんでした。市民革命以降、市民は自由にものを売ったり買ったりすることを求めるようになりました。その根底には、自分が持っているものや自分で手に入れたものは自分のものであるという考え方があります。この考え方を所有と言います。その権利を所有権と言います。所有権を持っていれば、だれにも指図されずに自由に自分のものを売ったり貸したりすることができます。

そして所有権を持つ自由で平等な市民が、ものを自由に売ったり買ったりすることで、資本主義は発展してきました。そのようなプロセスのなかで、「だれと、どのように、どんな内容の契約を結ぶか（結ばないか）」を当事者どうしが自由に決めることができる原則が生まれました。この原則のことを「契約自由の原則」と言います。C 契約自由の原則は、自分が考えたとおりに「自分らしく生きる（自由）」という法の基本的な価値を実現しようとしている考え方と言えるでしょう。

この考え方は社会を維持していくうえで、とても大切です。もし契約という考え方がなかったらどうなるでしょう。安心してものを売ったり買ったりすることができません。契約を結び、守ることであるモノやサービスを便利により安く手に入れることができるのです。また、きみが将来会社をつくりたいと考えたとき、仲間と約束して会社を立ちあげたり、銀行からお金を借りたりするかもしれません。これらも契約という考え方がなかったら実現できません。このようにわたしたちは、他者と契約を結ぶことで、自分のやりたいことを実現していくことができるのです。つまり、社会がうまくまわっていくために契約は不可欠なのです。

タツくんは、「電車に乗るときに契約書にサインしていないから、契約していない」とか、「契約の内容を知らないから、合意していない」と言うかもしれません。

まず、「契約に契約書は必ず必要なのか」を考えてみます。契約をする人たちの申し込みと承諾があれば、口約束でも契約は成り立ちます。なぜ契約書をつくる必要があるかというと、トラブルを防いだり、裁判になったときに証拠にしたりするためです。

次に、「契約の内容を知らないから契約は成り立たないのか」を考えてみます。たしかに、鉄道会社がホームページなどで示している約款をすべて読んでいる人は少ないでしょう。そこに何が書かれてあるかも知らないのがふつうです。しかし、電車やバスに乗るときや、ホテルに泊るとき、宅配便を利用するときのように、多くの人と会社との間で契約が結ばれる場合、一人ひとりと契約を結んでいては時間や手間がかかります。そこで、そのような場合は原則として、契約をする人の間に約款に従う意思があったものとするという考え方がとられています。きみも電車に乗るとき、実は知らないうちに契約をしているのです。

D このように考えていくと「電車に乗るときに契約書にサインしていないから、契約していない」とか「契約の内容を知らないから、合意していない」というタツくんの主張を認めることはできないでしょう。

契約はいちど結んだら守らなければなりません、例外もあります。

〈 中 略 〉

※ これは、アメリカのできごとですが、**E** 日本ではどのようなときに契約が無効になったり取消されたりするのでしょうか。

まず、社会的に認められないような契約は無効です。たとえば、お金をわたして裏口入学をしようとして入学できなかったとしても、そのお金を返すように求めることはできません。裏口入学が反社会的なものだからです。これを、公序良俗に反すると言います。次に、赤ちゃんやお酒を飲みすぎている人がした契約は無効です。また、借金のある人が自分の家が差し押さえられることを逃れるために、友だちに家を売ったことにして差し押さえられないようにするなどのウソの契約は無効になります。相手が意思表示をしているけれど、その意思表示を本当に実行しようとする気がないことを知っていたり知ることができたりした契約は無効となります。たとえば、「嘘ついた

ら針千本のーます」というゆびきりげんまんを本気にする大人はいないですよ。

契約が無効になるもののほか、だまされたりおどされたりして結ばれた契約は取消することができます。また、勘違いかんちがでした契約は取消することができます。ただし、簡単に取消すと相手は困ってしまうので、勘違いの契約がすべて取消することができるわけではなく、裁判所の判断にゆだねられます。さらに、未成年の人が、おこづかい程度以上の金額の契約を結ぶ場合は、保護者の同意がなければ契約することができません。契約したとしても本人や保護者の申し出によって取消することができます。

このような契約の無効や取消しは、「契約自由の原則の修正」といわれます。契約を結ぶ人どうしが持っている情報や交渉力こうしやうりょくが対等であれば、自由に契約をしているとは言えません。そのため、「自分らしく生きる」という法の基本的な価値を実現するために、契約自由の原則の修正がほどこされているのです。

〈小貫篤『ちくまQブックス 法は君のためにある みんなとうまく生きるには？』（筑摩書房）より〉

〔語注〕

※市民革命……………市民が自分たちの意見を政治に反映させるため、国王の力をおさえつけようとした動きのこと。

※資本主義……………もとでとなるお金をもつ資本家が利益を得ることを目的として、働く人をやとつてものを生産する経済の仕組み。

※プロセス……………仕事を進める方法。手順。

※これは、アメリカのできごとですが……………直前の中略の部分で、アメリカにおける契約無効けいやくの例が示されている。

※公序良俗……………「公の秩序ちつじょ」と「善良の風俗」を縮めたもので、社会の一般的な秩序いっぱんてきと道徳のこと。

問一

1 4 に入る言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア ただし イ なぜなら ウ そのため エ また オ たとえば

問二

「i」「vii」には「権利」か「義務」のどちらかの言葉が入ります。それぞれ、どちらの言葉を入れるのがふさわしいですか。その組み合わせとしてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	i	権利	ii	義務	iii	義務	iv	権利	v	権利	vi	義務	vii	権利
イ	i	義務	ii	権利	iii	権利	iv	義務	v	権利	vi	義務	vii	義務
ウ	i	義務	ii	権利	iii	義務	iv	権利	v	権利	vi	権利	vii	権利
エ	i	権利	ii	義務	iii	義務	iv	権利	v	義務	vi	権利	vii	権利
オ	i	権利	ii	義務	iii	権利	iv	義務	v	義務	vi	義務	vii	義務

問三

A 電車が15分遅れたからといって鉄道会社は義務を果たしていないとは言えません。とありますが、なぜですか。この理由としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鉄道会社は15分の遅れを、遅れではないと考えているから。
 イ 15分の遅れについて責任を負う義務は約款に書かれていないから。
 ウ 約款に記されている義務を果たさなくてもよい特殊なケースがあるから。
 エ 支払いの義務は乗客が鉄道会社に対して責任を訴えた場合にのみ発生するから。
 オ 責任をとって運賃を払い戻すのは、鉄道会社がその都度判断することになっているから。

問四 B 鉄道会社にお金の支払いを求めて裁判を起こしました。とありますが、この裁判を起こした人は敗れています。どのような判断

で主張が認められなかったのですか。裁判所が示した判断を、「〳〵という判断。」に続くように、本文から五十四字でぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問五 C 契約自由の原則は、自分が考えたとおりに「自分らしく生きる（自由）」という法の基本的な価値を実現しようとしている考え方

と言えるでしょう。とありますが、なぜそう言えるのですか。この理由を説明したものとしてもっともふさわしいものを、次の

A〳〵オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 契約を結ぼうとする当事者どうしが、契約内容や相手などを自由に決定することができるため、自由を実現していると言えるから。
イ ものを自由に売ったり買ったりすることで成立した資本主義が、所有権を持つ市民に対して、自分らしく生きることを認めたから。
ウ 「だれと、どのように、どんな内容の契約を結ぶか（結ばないか）」は、国民が作った法律によって決められるようになったから。
エ 自分が持っているものや自分で手に入れたものは自分のものであるという考え方により、古代から自由は保証され続けていたから。
オ 契約自由の原則ができたことよって初めて、人々は自由に職業を選んだり経済活動をしたりすることを求めるようになったから。

問六 D このように考えていくと「電車に乗るときに契約書にサインしていないから、契約していない」とか「契約の内容を知らないから、

合意していない」というタツルくんの主張を認めることはできないでしょう。とありますが、これについて次の(1)(2)に答えな

さい。

(1) 「電車に乗るときに契約書にサインしていないから、契約していない」という主張を認めることができないのは、なぜですか。
その理由を簡潔に説明しなさい。

(2) 「契約の内容を知らないから、合意していない」という主張を認めることができないのは、なぜですか。その理由を簡潔に説明しなさい。

問七

日本ではどのようなときに契約が無効になったり取消されたりするのでしょうか。とありますが、「無効になったり取消されたりする」ような日本の例としてふさわしくないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 裏口入学に関する契約など、公序良俗に反するような、社会的に認められていない契約。
- イ 借金のある人が差し押さえから逃れるため、友達に家を売ったことにするようなウソの契約。
- ウ 契約に関して相手が実行する気がないということを、事前に知ることができた状況での契約。
- エ だまされて結んだ契約や、裁判所によって「勘違いで結ばれた」と認められた場合の契約。
- オ 未成年の人が結んだ契約のうち、保護者によって同意がなされていないすべての契約。

問八

愛子さんは授業でこの文章を読んで、「契約」に関する筆者の説明をふまえて「タツルくんの遅刻」に関して再度検討をしてみよう
と思い、以下のように自分の考えを整理してみました。

【メモ】

●タツルくんの、電車の遅れによる遅刻をなかつたことにできるかどうか。

〈隠れた二つの契約〉

①タツルくんと鉄道会社の契約

- ・ 鉄道会社の契約上の義務は、鉄道会社がお金と引きかえにお客さんがある駅から別の駅まで運ぶというものである。
大幅に遅れたとき以外は、時間どおりにお客さんを運ぶ義務はない。
- つまり、鉄道会社に責任はない。

・ 公序良俗に反するものではない。

・ 勘違いで結んだ契約ではない。

タツルくんと鉄道会社の契約に問題はないため、遅刻を無かつたことにはできない。

②タツルくんと学校の契約

・タツルくんは、入学時に学校と「校則を守る」という契約をしている。



・もし、
[]
ならば……



遅刻を取消することができるかもしれない。

愛子さんは、「①タツルくんと鉄道会社の契約」には問題がないと分析し、〈隠れた二つの契約〉の二つ目である「②タツルくんと学校の契約」を考えてみました。すると、タツルくんは入学する際に、「校則を守る」という契約をしていることを思い出しました。

この契約に注目すると、タツルくんはある場合において、遅刻を取消することができるかもしれないということに気づきました。この【メモ】

の
[]
に入る文を、考えて書きなさい。

【三】 次の【Ⅰ】【Ⅱ】の文章を読み、後の問いに答えなさい。※のついている語は、文章のあとに語注があります。

アメリカに家族で住んでいる「礼那^{れいな}」（十四歳^{さい}）と、いとこの「逸佳^{いつか}」（十七歳）は、親の許可なくアメリカを二人で旅している。二人は旅のちゅう、電車の中で編み物をする男性と知り合った。次の【Ⅰ】[※]はマンチェスターのハンバーガーショップで「逸佳」が偶然^{ぐぜん}その男性と再会した場面で、【Ⅱ】はそれに続く場面である。

【Ⅰ】

ぽつてりと厚いカップに入った二杯目^{はいめ}のコーヒーを前にして、逸佳は、^Aこれは雨やどりだ、と思うことにする。事実、雨が降っているのだし、傘^{かさ}を持っていない逸佳は、いまおもてにできれば濡れ^ぬねずみになってしまふのだから。

クリス——という名だということは、さつき知った——は、編みかけの何かを無造作^{ふくろ}に袋につっこみ、おもしろそうに逸佳を見ている。

「じゃあ、二人きりで旅をしてるんだね」

そう、とうなずいて、コーヒーを一口のむ。なんとなく甘く^{あま}したくなって、一杯目には使わなかった砂糖とミルクを加えた。

※ 「学校はつまらなかったの？」

「つまらなかったっていうか、普通^{ふつう}だった」

逸佳がこたえると、クリスは可笑^{おか}しそうな表情をして、

「普通じゃ、だめだったんだ」

と言う。

「そう」

逸佳は肯定^{こうてい}する。

店にとびこんだとき、逸佳は何も考えていなかった。偶然知り合いに会ったような驚^{おどろ}きと嬉^{うれ}しさに駆^かられ、気がつくとも男の目の前に立っていた。実際には知り合いとはいえないにもかかわらず。

男は編物から顔をあげ、無表情に、

「ハイ」

と言った。逸佳を憶えていたわけではなく、何か用、という程度の意味のハイだとわかった。

「私、列車であなたを見たわ。あなたは私たちの荷物を見てくれた」

逸佳が言うと、一瞬まができたが、

「憶えてるよ」

という返答があり、すぐに続けて、

「調子はどう？ たのしんでる？」

と訊かれた。言葉は親しげなのに男は依然として無表情で、そのことが逸佳には好ましかった。愛想笑いのようなものの一切ないことが。「ここに坐つてもいい？」と尋ねたとき、「もちろん」とか「どうぞ」とかではなく、ただ「オーケー」とこたえたところも。

「で、普通じゃないものは何か見つかった？」

クリスが訊く。大きな男の人だ。ファストフード店の小さな座席は窮屈そうに見える。

「どうだろう。普通じゃないものを探してるわけじゃないから」

逸佳はこたえ、肩をすくめた。こんなふうには、知らない相手と ^B 気負いなく話せていることが不思議だった。不思議だが、奇妙に自然でもあった。それに、逸佳にはクリスの英語がよくわかった。わかりすぎて、日本語で会話をしているような錯覚に陥りそうなほどだった。

クリスは「すぐそこ」のアパートに住んでいて、夏はトレッキングの指導員、冬はスキーの指導員として働いているけれども、いまは「秋休暇中」だそうだった。ポストンに「お母さんのようなもの」（というのが何のことかはわからなかったが）が住んでいて、毎週末会いに行っており、逸佳と礼那が見かけたのは、ポストンからの帰りの列車内の彼だった。車の方が便利だけれど、クリスはいつも列車を使う。なぜなら、列車なら移動中に編物ができるからで、編物は「趣味というより精神安定剤のようなもの」なのだそう。

「そんなに精神が不安定なの？」

尋ねると、今度はクリスが肩をすくめた。

「僕はあまり社交的な人間ではないから」

と、質問から微妙にずれたこたえが返る。雨はまだあがっていないが、だいぶ小降りになっている。これ以上遅くなれば礼那が心配するだろうし、二杯目のコーヒーマホもほとんどのみ終えてしまった。

「そろそろ行かなきゃ」

逸佳が言うと、クリスは、

「オーケー」

とこたえた。

「話せてたのしかったよ」

と、とても淡々とした口調で。

「私も」

逸佳は言い、立ちあがったが、別れ難い気がふいにした。それで、コーヒーマップの載ったトレイを両手で持ったまま、逸佳は生れてはじめてのことをした。

「私たち、また会える？」

と訊いたのだ。クリスは意外そうな顔をして、

「また会いたいのか？」

と単□直□すぎると逸佳の思う訊き返し方をする。

D
「イエス」

トレイごしに、逸佳ははつきりとこたえた。

【Ⅱ】

髪にもコートにも雨粒をいっぱいつけて帰ってきたいつかちゃんは、帰ってくるなり、

「※アムトラックで編物していた男の人を憶えてる？」

と訊いた。訊いたくせに礼那の返事を待たず、

「その人に会ったよ、いま、市庁舎の先のバーガーキングで」と続ける。

「誰？ バーガーキング？ いつかちゃんハンバーガーをたべてきたの？」

きょうも昼食は抜きだったので、礼那は空腹だった。もうすぐ夜ごはんだと思って、お菓子^{かし}をたべるのがまんしていたのだ。
「たべてないよ。雨やどりして、コーヒーをのんだだけ」

「よかったー」

今夜は、ハリスさんが「絶対おすすめ」と言っ[※]て礼那のノートに書いてくれた二軒^{けん}のレストランのうちの、どちらかに行く予定になっているのだ。「バッファローウィングが絶品」のレッドアロー[※]か、「お洒落^{しゃれ}な店で、ラビオリ[※]がおいしい」コットン[※]か。

「しかし寒いね。凍^こえた。ごはんに行く前に私もお風呂^{ふろ}に入るから、ちょっと待ってて」

いつかちゃん[※]は言い、バスルームに入[※]って行[※]った。

それで、礼那が「クリス」について聞いたのは、レストランに着いてからだ[※]った。ホテルで聞いたときには唐突^{とうとつ}すぎて（それに、バーガーキングの方に気をとられて）思[※]いだせなかったが、列車のなかにいた編物男[※]のことは礼那も憶えていた。がっしりした体格で、半袖^{そで}のTシャツを着[※]ていて、腕^{うで}に小さなタトゥーがあ[※]った。編物[※]をしていた。そして、トイレに行くとき荷物[※]を見てもら[※]った。

「私たちのこと憶えてた？」

尋ねると、

「憶えてた」

といつかちゃんはこたえ、

「ていうか、言[※]ったら思[※]いだした」

と言[※]い直[※]す。

「ふうん」

いつかちゃんはその人とコーヒーをのみ、話をしたらしい。

「でもなんで？　なんで声をかけたの？」

「わからない」

いつかちゃんは考え込んだ。

E

みたいで、なつかしく感じちゃったの。変だけど」

「変だね」

バッファローウィングは（結局レッドアロー^グを選んだ）、ハリスさんの言ったとおり「絶品」に美味しい。カリカリに焦^こげていて、何種類ものスパイスの、複雑な風味がして。

「でも、なんで滞在延長^{たいざい}？」

マンチェスターには一泊^{いっぽく}だけして、あしたはまたヒッチハイクで湖水^{こすい}地方に向^{むか}う。いつかちゃんはそう言っていた。散歩にでる前には――。

「それはきょうが土曜日だから。さっき言ったじゃん。クリスはあしたボストンに行って、月曜日に帰ってくるの。それで、いまは秋期休暇中だから、火曜日以降なら湖水地方でもホワイトマウンテンズでも案内してくれるって」

それはさっきも聞いていた。礼那が訊きたかったのは、なぜその人に案内してもらうことにしたのかで、まあ、誰であれ地元の人が案内してくれるというのなら、断る理由もないのだけれど。

レッドアロー^グはすごく素朴^{そぼく}な、倉庫かドライブインみたいな見かけの店で、土曜の夜だからか、とても混^{にぎ}んで賑^{にぎ}わっている。バッファローウィングは名物らしく、どのテーブルの人たちも大量^{たふ}に頼^{たの}んでいた。たぶん夜どおし賑^{にぎ}わうのだろう、おもての看板に、二十四時間営業と書いてあった。

「あしたはクーリエ美術館に行ってみよう」

ガイドブックをめくりながらいつかちゃんと言う。

「日曜日だから、お店なんかは閉まってるし、いい美術館だってクリスマスも言ってたから。敷地^{しきち}内に何とかハウスっていう建物があつて、そこがいいんだって」

「わかった」

「それで、月曜日はちょっと買物をしよう」

いつかちゃんは続けた。

※「キタリーでアウトレットに行きそびれたし、冬用の衣類がもつと要るでしょ。クリスマスが言ってたけど、湖水地方もホワイトマウンテンズもすごく寒いって。紅葉はもう終り^{おわ}で、もしかすると雪かもしれないって」

「わかった」

礼那はまたこたえたが、考えているのはべつなこと、アーヴィングの小説のことだった。『ホテル・ニューハンプシャー』のなかで、パパとママは再会し、ほんとうに出会う。いつかちゃんと編物男も、ほんとうに出会ったのかもしれない。もしそうなら、それはすごいことだ。今夜のいつかちゃんは、いつになく饒舌^{※じょうぜつ}だ。それに、編物男のことばかり話している。

「あのさ」

礼那は好奇心をおさえきれなくなる。

「それって恋とかみたいなことなの？」

指先も口のまわりも油でべとべとにしながら、四本目か五本目のバッファローウイングをたべていたいつかちゃんは、驚いた顔で礼那を見た。

「そんなわけないじゃん」

あつさりと言う。

「ただいいやつなの。年上の人をいいやつなんて言うのは失礼かもしれないけど、ほんとうに、いいやつっていうのがびったりくる感じなの。れーなも会えばわかるよ」

F ふうん。礼那は返事をしたが、ほんとうに「そんなわけない」のかどうかはわからなかった。なにしろここはニューハンプシャーなのだ。食事を終え、おもてにでると、順番待ちのお客さんがたくさんいた。

「おいしかったかい？」

太ったおじいさんに話しかけられ、

「すごく」

と礼那はこたえる。雨はもうあがっていた。濡れて磨かれたみたいな夜の空気が、揚物でお腹がいっぱいになった身体に気持ちよかった。

〈江國香織『彼女たちの場合は 上』（集英社文庫）より〉

〔語注〕

※マンチェスター……………アメリカ合衆国ニューハンプシャー州南部、ヒルズボロ郡の都市。

※「学校はつまらなかったの？」……………逸佳は日本の学校を自主退学して留学するためアメリカにやってきた。

※ボストン……………アメリカ合衆国の都市の名前。

※アムトラック……………アメリカ合衆国の列車。

※ハリスさん……………マンチェスターに行くためにしたヒッチハイクで車に乗せてくれた女性。ヒッチハイクとは通り

がかりの自動車に乗せてもらいながら、お金をかけずに目的地まで行く旅行のこと。

※バッファローウィング……………鶏肉料理の名前。

※ラビオリ……………四角いパスタ生地^{きじ}にひき肉や野菜などをはさんだ料理。

※湖水地方……………ハリスさんが薦めてくれたニューハンプシャー州にある観光地。後に出てくるホワイトマウンテ

ンズもハリスさんの薦めてくれた場所。

※キタリー……………アメリカ合衆国の町の名前。

※アーヴィング……………ジョン・アーヴィング。ニューハンプシャー州生まれの作家。

※饒舌……………よくしゃべること。

問一 A

これは雨やどりだ、と思うことにする。とありますが、「と思うことにする」には事実とは異なることを納得させている気持ちがよくわかります。本当は何のために「逸佳」はここにいるのですか。本文全体から考えて簡潔に書きなさい。

問二 B 気負いなく の意味としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 気楽に イ かたくなに ウ 喜んで エ がっかりして オ 身構えて

問三 C 単□直□ の□にそれぞれ適当な漢字を一つずつ入れ、四字熟語を完成させなさい。

問四 D 「イエス」トレイごしに、逸佳ははつきりとこたえた。とありますが、「逸佳」は「クリス」とまた会うために、どのようなことを計画しますか。本文全体を読んで三十字以上、四十字以内でまとめなさい。

問五 E に合う言葉を文章【I】の中から八字で探し、ぬき出して書きなさい。

問六 F ふうん。礼那は返事をしたが、ほんとうに「そんなわけない」のかどうかはわからなかった。とありますが、これについて次の

(1) (2)に答えなさい。

(1) 「そんなわけない」とありますが、「そんなわけない」とはどのようなことですか。「ゝわけない。」に続く形で書きなさい。

(2) 「礼那」はなぜ「『そんなわけない』のかどうかはわからなかった」と思ったのですか。その理由を説明しなさい。

問七 本文中から読み取れる「逸佳」と「礼那」の関係としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「逸佳」は「礼那」の生活全てを見守り、外出はさせないなど親と子供のような関係である。

イ 「逸佳」と「礼那」はそれぞれの行動を理解しながら、素直に疑問をぶつけあえる関係である。

ウ 「逸佳」は「礼那」を年上として尊敬し、旅の予定を立てるなど役に立って従おうとする関係である。

エ 「逸佳」と「礼那」はいつでも行動を共にし、語り合うまでもなくおたがいを理解している関係である。

オ 「逸佳」と「礼那」はおたがい単独の行動をとりながら、自分の本心を見せないように努力する関係である。

問八 本文についての説明としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 【Ⅰ】では「逸佳」自身の語りのみで物語が展開し、【Ⅱ】では「礼那」自身の語りのみで物語が展開している。

イ 【Ⅰ】では「礼那」自身の語りのみで物語が展開し、【Ⅱ】では「逸佳」自身の語りのみで物語が展開している。

ウ 【Ⅰ】では「逸佳」の内面に出入りする第三者の語りで物語が展開し、【Ⅱ】では「礼那」の内面に出入りする第三者の語りで物語が展開している。

エ 【Ⅰ】では「礼那」の内面に出入りする第三者の語りで物語が展開し、【Ⅱ】では「逸佳」の内面に出入りする第三者の語りで物語が展開している。

オ 【Ⅰ】も【Ⅱ】も人物の内面には全く入らない第三者の語りで物語が展開している。

国語の問題はこれで終わります。

